

第4期中期目標・中期計画【5-2-①】に関する
令和7年度 自己評価書
(年度末実績)

国際企画推進室会議

中期目標・中期計画自己評価書検討部会

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 ① 令和6年度の自己評価書を公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。また、令和4年度から令和7年度までに実施した取組を4年目終了時評価達成状況報告書としてまとめ、進捗状況を自己評価・検証する。
【R7 年度行動計画(Plan)】 ・ 令和 6 年度の自己評価書を公表する。併せて、各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。また、各事業の実績をまとめた令和 7 年度の自己評価書及び 4 年目終了時評価達成状況報告書として、令和 4 年度から実施した各事業の取組をまとめ、進捗状況を評価検証するとともに、令和 8、9 年度の取組改善策（取組改善案を含む）を立案する。
【R7 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・ 令和 7 年 5 月に、令和 6 年度自己評価書を本学 HP に掲載した。 https://www.kagoshima-u.ac.jp/international/2024_jikohyouka.pdf ・ 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施し、実績のまとめを行った。併せて、令和 8 年度の行動計画を立案した。 ・ また、4 年目終了時評価達成状況報告書として、令和 4 年度から実施した各事業の取組をまとめ、進捗状況を評価検証するとともに、令和 8、9 年度の取組改善策（取組改善案を含む）を立案した。
【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・ 計画どおり実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R8 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・ 令和 7 年度の自己評価書を公表する。 ・ 各事業で令和 8 年度の行動計画を実施する。また、各事業の実績をまとめた令和 7 年度の自己評価書をまとめ、令和 9 年度の行動計画（取組改善案を含む）を立案する。

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。
【1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ】 「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育」 ・引き続き、保農獣工連携家庭訪問事業等の取組を実施する。
【R7 年度行動計画(Plan)】 ・大隅半島のへき地において、フロリダ A&M 大学の学生と本学保農獣工(医学部保健学科、農学部、共同獣医学部、工学部及び理工学研究科)の学生との共修で国際連携家庭訪問事業を実施する。 ・国際連携家庭訪問事業をかごしま地域リサーチ・プログラム「離島へき地のワンヘルス(One Health)」の科目で実施する。 ・学生への有効的な周知方法を検討する。 ・看護職8名を対象とした調査について、日本農村医学会雑誌に投稿し掲載を目指す。
【R7 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 1. 保農獣工連携家庭訪問事業 ・令和 7 年度より、保農獣工連携家庭訪問事業は、地域人材育成プラットフォーム「かごしま地域リサーチ・プログラム:プログラム・スキル科目」(高度共通教育科目)として、「離島へき地のワンヘルス(One Health)」を開講する予定であったが、手続きの手違いにより、令和 8 年度からの開講となった。 ・本事業では、11 月 22 日～24 日に、水産学部学生 2 名とともに、南星丸で三島村 3 島(黒島、硫黄島、竹島)へ赴き、フィールドワークおよび対象者へのインタビューを実施した。 ・参加学生を募集したところ、保農獣工の各部局から計 20 名の応募があった。南星丸の定員に限りがあるため、農学部、共同獣医学部、工学部、医学部保健学科各専攻(看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学)からそれぞれ 2 名ずつ、計 12 名(うち工学部所属の外国人留学生 2 名)を選抜した。しかし、正式な科目として位置づけられなかったため、看護学専攻の学生 2 名から辞退があり、10 名での実施となった。なお、引率教員として農学部と医学部保健学科から各 1 名、教員 2 名が同行した。 2. 国際連携による分野横断的グローバル教育 上記に加えて、地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的なグローバルな教育として、以下の取り組みを推進し、令和 7 年度行動計画を着実に実行した。 (1) 韓国・中央大学からの学生・教員受入れ ・韓国・中央大学校赤十字看護大学の学生 8 名および教員 1 名を 6 月 25 日～7 月 4 日に受入れ、保健医療福祉施設の見学、大学病院での実習、本学学生との合同授業や文化交流等を実施した。 ・韓国・中央大学校大学院のシミュレーション教育、グローバルヘルス、公衆衛生分野の学生 8 名を 7 月

2日～5日に受け入れ、医療福祉施設の見学と本学大学院生との合同授業(グループによる事例検討、発表、ディスカッション)を実施した。

- ・老年看護学、がん看護学分野の学生4名および教員1名を7月16日～19日に受け入れ、医療福祉施設の見学と本学大学院学生との合同授業(グループによる事例検討、発表、ディスカッション)を実施した。

(2) 海外大学への学生・教員派遣

- ・韓国・中央大学校赤十字看護大学へ、看護学専攻学生7名、理学療法学専攻学生1名、教員2名を9月3日～12日に派遣した。
- ・米国・ベレアカレッジへ、看護学専攻学生6名、理学療法学学生1名、作業療法学専攻学生1名、教員2名を9月3日～12日に派遣した。

(3) インドネシア・ディポネゴロ大学との連携

- ・学生3名を医学部特別聴講生として10月24日～11月16日に受け入れ、本学学生との合同授業や交流、医療福祉施設での実習を行った。また、教員1名は、10月24日～31日に受け入れた。
- ・同大学の教員を基調講演者として招聘し、第5回かごしま国際看護フォーラムを10月25日に開催した。対面とオンラインにて国内外から94名の参加があり、活発な意見交換が行われた。

【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】

- ・保農獣工連携家庭訪問事業は、フロリダ A&M 大学との連携が図れず、当初計画した国際連携事業として実施することはできなかった。しかし、水産学部学生とともに南星丸での航海ができたことから、三島村3島でのフィールドワークと対象者へのインタビューが叶い、また留学生が参加したことで国際的な比較もでき、学びの多い事業となった。
- ・各部署の担当教員による学生への周知が功を奏し、保農獣工すべての学生が参加できたが、正式な科目として位置づけられず、2名の学生が参加を辞退したことは課題の残る結果となった。
- ・韓国学生との双方向交流、米国への派遣、インドネシア学生の受入は、保健学科学生のグローバル教育に多大な貢献となった。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R8 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・水産学部学生とともに南星丸で保農獣工連携家庭訪問事業を実施する。
- ・地域人材育成プラットフォーム「かごしま地域リサーチ・プログラム:プログラム・スキル科目」(高度共通教育科目)として、「離島へき地のワンヘルス(One Health)」を開講し実施する。
- ・韓国・米国・インドネシアの大学との双方向の学生交流のための資金を獲得し実施する。
- ・看護職8名を対象とした調査について、学会誌に投稿し掲載を目指す。

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。
【1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ】 「2)国際共修教育」 ・大学間学術交流協定校との間の国際共修について制度的安定化を図り、これをモデルとして全学的な展開を推進する。 ・大学の世界展開力強化事業をはじめとした国際共修教育の推進に繋がる外部資金への申請に向けた企画・立案を行う。
【R7 年度行動計画(Plan)】 ・ 国際共修の受入プログラムにおける制度的課題を解決し、国際共修プログラムを本学グローバル教育の要として全学的な展開を更に推進する。
【R7 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・ 7 月に本学学術交流協定校のハワイ大学マノア校社会科学学部の学生 10 名を受け入れ、本学学生との国際共修プログラム「戦後80年『戦争・平和ミュージアム』を通して平和を考える」を実施し、本学からは9名の学生が参加した。本プログラムの運営にあたり、以下の 3 つの課題があった。 (1) 単位付与(質保証) 学生に対する単位付与の仕組みが不十分である点については、来年度より実施母体を本学の法文学部に置くことで解決を図る。 (2) 本学学生の参加困難 本学学生の参加が難しい状況を改善するため、実習日を休日に設定する対応を行ったが、事前・事後学習への参加が難しいという問題が残った。 (3) マネージメントの連携不足 教育プログラム担当者と会計などの事務担当者の連携が難しい状況については、奨学金の支給方法を整理する他、役割分担を明確化することで対応を進めた。 ・ 水産学部と理学部(宇宙物理)から、大学の世界展開力強化事業への申請希望が寄せられたが、具体的な企画の構築に至らなかった。JASSO(日本学生支援機構)を利用した受入に関しては、申請要件となる受入期間の長期化が要因となり、雲南農業大学、ハワイ大学マノア校、台湾国立中央大学のいずれも現行のスキームに適合させることが困難だった。 ・ 12 月には、ハワイ大学マノア校との国際共修プログラムの成果報告会を本学にて実施し、オンラインを活用してハワイ大学マノア校とも成果を共有した。 ・ 次年度のプログラム実施に向けてハワイ大学マノア校と協議を開始し、プログラム企画と併せて、本学

法文学部とハワイ大学マノア校社会科学部との間で、協働学習に関する協定書の作成も進めている。

2月には鹿児島県大崎町にて、「地域から世界へ：異文化インターンシップ体験」と題した5日間のプログラムを実施した。NPO 法人大崎ものづくりネットワーク振興会にプログラム企画を委託し、3つの企業で本学外国人学生と日本人学生のペア3組を受け入れ、現場実習を行った。3月27日に、大崎町で報告会を開催予定である。

【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】

ハワイ大学マノア校との国際共修プログラム、並びに大崎町での国際共修インターンシップを初年度のトライアルとして実施できたことは大変意義深く、高く評価できる。今後は実施体制の整備が課題となるが、新規プログラムの企画から運営まで達成したことは大きな成果である。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R8 年度行動計画(Plan)に相当)】

国際共修プログラム、並びに国際共修インターンシップを実施し、プログラムコンテンツの向上を図るとともに、実施体制の整備を行う。

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。
【(1) 地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ】 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受入
【R7 年度行動計画（Plan）】 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議（CSLM）に出席する（9 月）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、COIL で 1)¹, 3)²に関する予備学習プログラムを提供する（10 月から）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1)¹, 3)²に関する国際共修教育を実施する（1～2 月）。 ¹ 1) 地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ ² 3) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ
【R7 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、運営会議（CSLM）に出席した（9 月 22 日～24 日）。 ・ 同プログラムの短期留学生受け入れに関する準備として、受け入れ手続きおよび予備教材の作成を進めた（10 月）。 ・ 2026 年 1 月から 2 月に受け入れる 5 名の短期留学生について、事前の連絡と受け入れ準備を進めた（8 月～10 月）。 ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生 5 名（フランス、コロンビア、モロッコ、イタリア、エジプト）を受け入れ（1 月 18 日～2 月 21 日）、国際共修教育を実施した。 ・ 運営主任校であるパリ第一大学の取り纏めにより、エラスムス・ジョイントマスターTPTI プログラムの更新申請を欧州連合(EU)に提出した。（2 月 12 日）。
【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・ 全て予定通り実施した。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action) (R8 年度行動計画(Plan)に相当)】

・事業継続のための更新申請にあたり、新たにディポネゴロ大学や全北大学校等の本学大学間学術交流協定校を中心したアジア・ネットワークの構築を計画し、当該ネットワークを基盤に、分野横断的でグローバルな国際共修教育をさらに発展させる。

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。
【2) 外国語教育】 「3) 外国語教育」 ・ 本学の授業科目における SDGs 関連の取扱いの検証を行う。 ・ 学生の英語力の客観的把握及び結果の検証を行う。
【R7 年度行動計画（Plan）】 ・ SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、令和 6 年度の Web シラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みる。可能であれば令和 7 年度の Web シラバスも含め、検証を試みる。 ・ 令和 7 年度も引き続き、前年と同じ外部試験（G-TELP）を導入するとともに、令和 5 年度・令和 6 年度の試験結果を得て、検証する。
【R7 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・ 令和 8 年 3 月末（今年度終了）において、各事業が予定通り順調に進んだ。 ・ SDGs に関しては、令和 7 年度の共通教育英語の Web シラバスにおいて、（1）まず、リーディング授業（前期英語 IA）を中心に 1 年生の英語クラスの分析を実施した。94 クラス中、62 クラスで SDGs を取り扱っており、これは 65%となっている。（2）次に 1 年生対象の共通教育英語（英語 IA、IIA、IB、IIB、英語 I、英語 II）207 クラス中、132 クラスで SDGs を取り扱っており、これは 63%となっている。 ・ 令和 7 年度の推奨テキストリストの I A、II A リーディング部分に SDGs 関連の教科書を加え、令和 7 年度推奨テキストリストに SDGs 関連の教科書を加える更新をした。 ・ 令和 7 年度の前期に外部試験（G-TELP）を実施した。後期も同様に実施した。 ・ 追加事項として、昨年度（令和 7 年度）の試験結果のデータ整理を行い、令和 3 年度、令和 4 年度、令和 5 年度、令和 6 年度 と同じ形で分析を行った（経年変化を見込んだ拡大分析—後の教育課題への先取り—に向けて）。
【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・ SDGs をどの程度授業で扱っているかについて、Web シラバスの SDGs の項目のチェック状況等を用いて把握・検証を試みた。 ・ 経営戦略経費に申請して財源を確保した英語外部試験について検討した結果、G-TELP を採用し、1 年生及び 2 年生前期・後期の全学生を対象に実施した。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action) (R8 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・SDGs をどの程度授業で扱っているかについては、次年度も継続して調査する。Web シラバスの SDGs 項目のチェック状況等を用いて、取組状況の把握と経年比較による検証を行う。
- ・次年度より、共通教育全体のカリキュラム改革（教育支援体制及び教授法の再構築等を含む）が授業へ導入される。これに向けた準備を、令和7年度を中心に入念に進めてきた結果、開講科目数、開講時間数、単位構成、シラバス、教材等、多岐にわたり大幅な新規導入・変更が行われる予定である。これらについて、①学習到達度や受講者アンケート等を活用した教育・学習効果の検証、②授業運営上の課題（負担、運用上の不具合等）の把握、③SDGs を含む教育内容の充実度の点検を重層的かつ継続的に進めていく。

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。
【3）外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ】 「4）外国人留学生に対する日本語・日本文化教育」 ・関連する法令改正の動向を踏まえ質の確保に努めるとともに、留学生の多様なニーズに対応した日本語・日本文化教育を実施する。
【R7 年度行動計画（Plan）】 ・外国人留学生の多様なニーズに対応する日本語・日本文化教育を実施する。
【R7 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・全学留学生を対象とした Study Japan Program で、対面科目と並行して複数レベルのオンライン科目を開講し、桜ヶ丘キャンパスの学生など対面受講が難しい留学生を含め、多様な学習ニーズに対応した。 ・令和 7 年度前期、学部正規留学生を対象とする共通教育科目「日本事情 A」を、学内 6 部局の教員協力のもと実施した。防災ワークショップやメンタルヘルス等の内容を拡充し、留学生活初期のニーズに即した授業内容の充実を図った。 ・留学生の多様な地域学習の一環として、①鹿児島大学附属小学校での交流授業（5 月 29 日）②高隈演習林での共修型実地研修（7 月 10 日）を実施した。①では附属小学校外国語科と連携し、小学生の授業に参加して文化交流を行い、地域の児童と留学生双方にとって実践的な学びの機会となった。②では農林水産学研究科と連携し、大学院生と留学生による共修活動を高隈演習林および近隣集落で実施した。学内施設を活用した地域連携型の取組として、演習林の教育・研究拠点としての機能強化にも寄与した。
【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・計画通り、留学生の多様なニーズに対応した日本語・日本文化教育を実施した。 ・附属小学校との交流授業や高隈演習林での共修型実地研修などを通して、留学生が地域社会への理解を深める学習機会を提供した。
【上欄に基づく取組改善策の立案（Action）（R8 年度行動計画（Plan）に相当）】 ・外国人留学生の多様なニーズに対応する日本語・日本文化教育を実施する。
参考資料 2025 年前期 SJP 科目受講者の情報：開講クラス、受講者の国籍、在籍身分 2025 年後期 SJP 科目受講者の情報：開講クラス、受講者の国籍、在籍身分

各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属
令和7年度前期

科 目	受講者数	性別		修了者数	受講者の在籍資格					専門・所属																		
		男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	農学	共同獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	保険	理工	農林水産学	医歯	臨床心理	共同獣医学研	連合農学	連合獣医	他大学
入門日本語1	9	4	5	6	0	2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	1	0	0
入門日本語2	5	1	4	5	0	2	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0
会話1A	10	3	7	7	0	3	2	2	3	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0
会話2A	7	4	3	6	0	3	1	1	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1
会話3A	13	6	7	13	0	5	3	0	5	2	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0
会話4A	10	4	6	9	0	2	0	0	8	1	0	0	0	0	3	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
会話5A	17	11	6	15	0	2	1	0	14	0	0	0	0	0	8	3	0	0	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0
会話6A	14	6	8	13	0	2	0	0	12	0	0	0	0	1	7	3	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0
総合日本語1	18	9	9	18	0	1	1	0	16	0	0	0	0	1	10	5	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合日本語2	15	7	8	15	0	1	0	0	14	0	0	0	0	1	8	4	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
演習1A	10	3	7	7	0	3	2	2	3	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0
演習2A	8	5	3	4	0	4	1	1	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1
演習3A	17	7	10	17	0	5	3	0	9	3	0	0	0	3	3	3	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0
読解4A	10	3	7	9	0	0	2	0	8	2	0	0	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
読解5A	20	11	9	17	0	4	2	0	14	1	0	0	0	0	8	3	0	0	4	0	2	1	1	0	0	0	0	0
読解6-1A 論文読解基礎	12	4	8	12	0	1	0	0	11	0	0	0	0	0	7	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
読解6-2A	13	5	8	13	0	2	0	0	11	0	0	0	0	0	8	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
作文5A	14	9	5	13	0	2	2	0	10	1	0	0	0	0	8	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
作文6A	14	5	9	14	0	3	0	0	11	0	0	0	0	0	7	3	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0
作文7A	6	3	3	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
漢字	12	8	4	11	0	2	2	1	7	0	0	1	0	1	5	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
日本語ワークショップ A	39	15	24	36	0	0	2	0	37	0	0	0	0	0	21	8	0	0	9	0	0	1	0	0	0	0	0	0
留学生のための異文化理解	4	4	0	4	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
日本社会と文化 1	6	0	6	5	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本社会と文化 2	12	7	5	11	0	0	2	0	10	1	0	0	0	0	8	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修了レポート	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語プレゼンテーション	8	4	4	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語研修生レポート	8	4	4	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グローバルセンター開講科目 総計	332	153	179	303	0	49	29	9	245	13	2	6	0	14	131	69	0	3	24	0	19	32	10	0	4	2	0	3
日本語I*	9	7	2	／	9	0	0	0	0	2	0	0	0	3	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語Ⅱ*	9	7	2	／	9	0	0	0	0	2	0	0	0	3	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本事情A*	10	8	2	／	10	0	0	0	0	2	0	0	0	3	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共通教育科目 計	28	22	6	／	28	0	0	0	0	6	0	0	0	9	6	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。

各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属
令和7年度後期

科 目	受講 者数	性別		修了 者数	受講者の在籍資格					専門・所属																			
		男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備 教育生	短期等	農学	共同 獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	保険	理工	農林 水産学	医歯	臨床 心理	共同 獣医学研	連合 農学	連合 獣医	他 大学	
入門日本語1（郡元キャンパス）	7	3	4	5	0	4	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0	
入門日本語1（桜ヶ丘キャンパス）	8	4	4	7	0	2	0	0	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	
会話1B	11	4	7	11	0	3	6	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	5	0	0	2	0	0	0	
会話2B	14	8	6	13	0	3	3	1	7	0	0	0	0	1	3	2	0	2	1	0	2	2	0	0	0	0	0	1	
会話3B	12	7	5	11	0	2	5	0	5	2	0	1	0	0	3	1	0	1	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
会話4B	9	5	4	7	0	2	4	0	3	0	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
会話5B	23	8	15	22	0	3	2	0	18	1	1	1	0	0	13	2	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	
会話6B	12	4	8	11	0	2	2	0	8	1	0	0	0	0	6	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
総合日本語1	11	4	7	11	0	1	1	0	9	1	0	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
総合日本語2	9	4	5	8	0	1	1	0	7	1	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
演習1B	11	4	7	10	0	3	6	0	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	5	0	0	2	0	0	0	
演習2B	11	6	5	11	0	1	2	1	7	0	0	0	0	1	2	2	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
演習3B	14	7	7	11	0	3	5	0	6	2	0	1	0	0	4	1	0	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
読解4B	13	5	8	10	0	3	3	0	7	0	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	
読解5B	21	7	14	21	0	1	2	0	18	0	1	1	0	1	12	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
読解6-1B 論文読解基礎	25	7	18	22	0	1	2	0	22	1	0	0	0	0	15	1	0	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
読解6-2B	10	4	6	6	0	2	0	0	8	0	0	0	0	0	4	1	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
作文5B	19	5	14	18	0	1	0	0	18	0	1	1	0	1	11	2	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
作文6B	10	3	7	10	0	0	2	0	8	0	0	0	0	0	7	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
作文7B	21	9	12	20	0	1	0	0	20	1	0	0	0	0	8	2	0	2	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
漢字	17	9	8	17	0	4	3	1	9	0	0	0	0	1	6	2	0	2	1	0	1	3	0	0	0	0	0	1	
日本語7-クショッヅ B	36	9	27	35	0	0	1	0	35	1	0	0	0	0	21	4	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 1	8	3	5	7	0	2	0	0	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 2	16	5	11	16	0	0	0	0	16	0	1	1	0	1	9	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
留学生のための異文化理解 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
グローバルセンター開講科目 総計	348	134	214	320	0	45	51	3	249	13	5	6	6	10	157	35	0	13	38	0	18	29	6	0	8	1	0	3	

日本語Ⅲ*	11	8	3		11	0	0	0	0	3	0	0	0	3	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語Ⅳ*	12	9	3		12	0	0	0	0	3	0	0	0	4	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本事情B*	10	8	2		10	0	0	0	0	2	0	0	0	3	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共通教育科目 計	33	25	8		33	0	0	0	0	8	0	0	0	10	6	0	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄 は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。
※ 共通教育科目に登録できない学生について記載

国籍	科目名																																	
	入門 日本語 1	入門 日本語 2	会 話 1 A	会 話 2 A	会 話 3 A	会 話 4 A	会 話 5 A	会 話 6 A	総 合 日 本 語 1	総 合 日 本 語 2	演 習 1 A	演 習 2 A	演 習 3 A	読 解 4 A	読 解 5 A	読 解 6 Ⅰ 1 A	読 解 6 Ⅰ 2 A	作 文 5 A	作 文 6 A	作 文 7 A	漢 字	日 本 語 ワ ー ク シ ョ ッ プ A	日 本 社 会 と 文 化 1	日 本 社 会 と 文 化 2	留 学 生 の た め の 異 文 化 理 解	修 了 レ ポ ー ト	日 本 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	日 本 語 研 修 生 レ ポ ー ト	グ ロ ー バ ル セ ン タ ー 開 講 科 目 計	日 本 語 Ⅰ	日 本 語 Ⅱ	日 本 事 情 A	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計
アメリカ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5
インド	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
インドネシア	2	1	3	1	0	0	0	0	2	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2	21	0	0	0	0	21
エチオピア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
オーストラリア	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	
韓国	0	0	0	0	1	1	1	5	5	5	0	0	1	1	1	3	4	1	4	1	1	5	1	1	0	0	0	0	42	0	0	0	0	42
カンボジア	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	9	
キルギス	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	7	
タイ	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	11	0	0	0	0	11	
台湾	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	9	0	0	0	0	9	
タンザニア	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	
チェコ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	3	
中国	1	4	2	1	5	5	10	4	4	1	2	1	9	5	10	6	4	5	5	2	0	25	4	7	0	0	1	124	7	7	8	22	146	
トルコ	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	3	0	0	1	0	0	1	16	0	0	0	0	16	
ドイツ	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	9	
ノルウェー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
パキスタン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
フランス	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	11	0	0	0	0	11	
フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
フィジー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
ブラジル	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	7	0	0	0	0	7	
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	
ベリーズ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	3	
ペルー	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5	
マラウイ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
マレーシア	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	2	2	6	12	
南アフリカ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
ミャンマー	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	10	
ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	7	
受講者総数	9	5	10	7	13	10	17	14	18	15	10	8	17	10	20	12	13	14	14	6	12	39	6	12	4	1	8	8	332	9	9	10	28	360

注) 1 数字は延べ数。

受講者の国籍
令和7年度後期

国籍	科目名																															
	入門 日本語 1 （郡元）	入門 日本語 1 （桜が丘）	会 話 1 B	会 話 2 B	会 話 3 B	会 話 4 B	会 話 5 B	会 話 6 B	総合 日本語 1	総合 日本語 2	演 習 1 B	演 習 2 B	演 習 3 B	読 解 4 B	読 解 5 B	読 解 6 I 1 B	読 解 6 I 2 B	作 文 5 B	作 文 6 B	作 文 7 B	漢 字	日 本 語 ワー ク シ ョ ッ プ B	日 本 社 会 と 文 化 1	日 本 社 会 と 文 化 2	グ ロ ー バ ル セ ン タ ー 開 講 科 目 計	日 本 語 III	日 本 語 IV	日 本 事 情 B	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計		
アメリカ	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	8	0	0	0	0	8	
インド	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	7	0	0	0	0	7	
インドネシア	1	7	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	1	19	0	0	0	0	19	
エチオピア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
エルサルバドル	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
エジプト	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0	2	2	0	12	0	0	0	0	12	
カンボジア	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	9	0	0	0	0	9	
韓国	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4	0	0	0	0	4	6	0	3	1	7	1	5	0	4	43	0	0	0	0	0	43	
スリランカ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	3		
スーダン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
スペイン	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	
タンザニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
タイ	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	3	0	0	2	15	0	0	0	0	15	
台湾	0	0	0	2	0	0	1	1	1	1	0	2	0	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	16	0	0	0	0	16	
中国	4	0	0	1	3	5	9	7	4	2	0	0	4	4	9	16	7	7	8	11		19	3	6	129	9	9	8	26	155		
チェコ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	
ドイツ	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	6	0	0	0	0	6	
ナイジェリア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
ナミビア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
パキスタン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
バングラデシュ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6	
フランス	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	0	17	0	0	0	0	17	
ブラジル	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	1	12	0	0	0	0	12	
フィジー	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	
フィリピン	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	
ベトナム	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
ベリーズ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
ペルー	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	
マレーシア	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	6	2	3	2	7	13		
ミャンマー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
メキシコ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	
受講者総数	7	8	11	14	12	9	23	12	11	9	11	11	14	13	21	25	10	19	10	21	17	36	8	16	348	11	12	10	33	381		

㊦) 1 数字は延べ数。

令和 7 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和 7 年度の行動計画を実施する。
【(3) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ】 「(5) 異文化環境でのインターンシップ」 ・キャリア形成支援センターと連携し、留学生を対象としたインターンシップを案内・企画する。 ・留学生の国内就職促進に向けた取組を企画・実施する。
【R7 年度行動計画（Plan）】 ・キャリア教育を学部留学生の必修科目に組み込み、取り扱う時間を拡充する。 ・キャリア形成支援センターと連携して外国人留学生を対象としたインターンシップや就職相談などの情報を周知し、国内就職の推進を図る。
【R7 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・令和 7 年度前期、学部正規留学生を対象とする必修科目「日本事情 A」において、就職関連の講義時間と内容を拡充し、留学初期から日本就職を将来の進路の一つとして考えられるよう支援を強化した。（受講留学生 11 名） ・令和 7 年 6 月 26 日、キャリア形成支援センターと連携し、本学在籍の外国人留学生を対象に「外国人留学生のための就活セミナー」を実施した。留学生特有の就職活動の課題に焦点を当てる内容で、対面・同時配信によるハイブリッド開催とアーカイブ配信を行った。日本での就職を希望する外国人留学生 31 名が参加した（対面 20 名、アーカイブ視聴 11 名）。 ・キャリア形成支援センターと連携した、ハローワークの専門家による出張就職相談（月 2 回）を実施した（延べ人数 30 名）。併せて、キャリア形成支援センターホームページ「留学生の方へ」で、留学生向けの就職関連情報を発信するなど、情報周知と支援体制充実を図った。
【R7 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・キャリア形成支援センターと連携し、外国人留学生の国内就職支援体制の充実を図った。 ・学部留学生必修科目における就職関連講義の拡充や、新たな事業への参画準備を通して、留学生の国内就職促進に向けた取組を強化した。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action) (R8 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・学部留学生必修科目におけるキャリア教育の取組を継続し、日本での就職を進路の一つとして考える機会を拡充する。
- ・キャリア形成支援センターと連携し、外国人留学生を対象とした就職相談や就職関連情報の周知を行い、国内就職の推進に取り組む。

【第4期中期目標・中期計画】国際関係抜粋

中期目標	【5】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携したオンラインの活用を含めた国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材を養成する。	
	中期計画	【5-1】国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を目指して、必要となる協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定等によって、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流及びダブルディグリー・プログラム等で実現するグローバルな教育制度、海外活動における危機管理教育等の異文化での学習を支援する体制、並びに経済的支援等の制度を整備する。
	評価指標	①グローバルな教育制度や異文化での学習を支援する体制・制度に必要な協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定によって実施した事業数（第4期中期目標期間中の合計）
	水準	①10件以上
	設定理由	①「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習（COIL）強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を、「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等を適切に締結・改定・策定することにより、世界的に拡大する海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充が実現できるため、それらを適用して実施した事業数を計画達成の評価指標と考える。
具体的取組		①1）「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、2）「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習（COIL）強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を想定し、3）「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定を適切に実施することにより、成果として、海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を想定している。

中期計画	【5-2】地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材の養成を目指して、地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、外国語教育、外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ等を推進し、海外派遣・受入にオンラインの活用を含めた新たな双方向学生交流を促進する。	
	評価指標	①各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みの構築と自己評価結果に基づく取組改善策の立案状況
	水準	①成果を全学的にまとめた自己評価書を毎年度公表するとともに、評価結果に基づく取組改善策を実施する
	設定理由	①現在、これらの国際的な教育等について、全学的に情報をまとめる仕組みが存在しないため、この仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施することで、新たな双方向学生交流の促進状況、及び地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成等についての情報提供・検証等が行えるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	①「1)地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」、「2)外国語教育」、「3)外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」について成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。成果として、PDCAサイクルで情報提供・検証を行うことで、新たな双方向学生交流を促進し、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成に寄与することを想定している。
	評価指標	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用して国際的な教育を実施した授業科目数（第4期中期目標期間中毎年度）
	水準	②大学全体で年間20科目以上
	設定理由	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講することで、国際的な教育が推進できるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講する。成果として、国際的な教育の推進を想定している。